

令和7年度（R7 年度：2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 30 日まで）事業報告書

団 体 名	特定非営利活動法人 クリエイティブライフデザイン
アドレス（HP、ツイッター、FB等）	HP: http://npocld.com Facebook: www.facebook.com/onecld/
事業の名称	「身近なアートコミュニケーター」養成と地域への普及・拡幅事業
事業の目標	■「身近なアートコミュニケーター」養成講座（2028 年迄に 100 名の養成を目標） ■アートで対話をする場づくり活動（AC で年間平均 150 名前後の方と出会う） ■文化的処方の研究と実践（アート共創拠点＜東京藝大＞での研究・実践）
事業の内容（概要） いつ、どこで、誰に、何を、どうした	■<u>上期</u>・春期「身近なアートコミュニケーター」養成講座（4 月から 7 月） ・アートワークショップ展開事業（対象別の企画実施をする予定） ・アール・ブリュット（Art Brut）2025 事業（企画業務） ■<u>下期</u>・秋期「身近なアートコミュニケーター」養成講座（9 月から 12 月） ・アール・ブリュット（Art Brut）2024 事業（企画から実施運営） ・アートワークショップ展開事業（地域活動紹介と SAV 実践講座など）。
事業の成果（参加人数、実施回数、質など具体的に記入。）	■<u>通期・「身近なアートコミュニケーター」養成講座</u> 春期 20 名、秋期 14 名の通期合計で 34 名（R4 年からの累計 66 名）の受講生 <u>春期</u>：①2025/4/18、②4/20、③4/25、④5/10、⑤5/16、⑥5/30、⑦6/8、⑧6/13、⑨6/21、⑩6/27、⑪7/5、⑫7/11、⑬7/12、⑭7/13 の 14 日間 <u>秋期</u>：①2025/9/12、②9/13、③9/26、④9/27、⑤10/4、⑥10/10、⑦10/18、⑧10/31、⑨11/1、⑩11/7、⑪11/22、⑫11/28、⑬12/6、⑭12/12 の 14 日間 <u>通期の効果</u>：身近な AC 養成 <u>今後の期待</u>：「文化的処方」の担い手としての共創人材養成 ■<u>アートワークショップ展開事業（対象別、地域活動紹介と SAV 実践講座）</u> ①2025/10/11 日_三鷹市民大学_総合コース『アート』コース講義&WS にて 26 参加 ②2025/10/25_A 型就労移行支援施設「キズナビジネスカレッジ」にて 12 名参加 ③2025/11/30_千川福祉会「ごちゃまぜの会」吉祥寺坪野邸にて 16 名参加 ④2026/1/16_「アートカード・ギフト・セッション」_吉祥寺西友のカフェにて 5 名参加 ⑤2026/2/13、2/17、2/25 合計 15 名 地域活動紹介と対話鑑賞体験会 I ⑥2026/3/3、3/17、3/135 合計 16 名 地域活動紹介と対話鑑賞体験会 II ■<u>アール・ブリュット（Art Brut）2025 事業（企画から実施運営）</u> ①2025/7/11_1 回目アール・ブリュットにて B(ブラインド)パーソン・スタイル SAV 20 名 ②2025/7/12_2 回目アール・ブリュットにて石井健介さんとの SAV 17 名 <u>活動の効果</u>：武蔵野アール・ブリュット委員会に選出され、2 つのワークショップを企画・担当した <u>ワークショップ参加者合計</u>：36 名／期間中の来場者は約 750 名
目標の達成度 （自己評価）	☒ 1. 達成できた ☐ 3. あまり達成できなかった ☐ 2. ある程度達成できた ☐ 4. 達成できなかった

令和7年度（R7 年度：2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 30 日まで）事業報告書

自己評価の理由 ※公益性の増進、団体の発展性、実効性、補助金を除く資金調達の達成度などについて、具体的に記入。	■公益性の増進：参加者累計 161 名／千川福祉会「ごちゃまぜの会」、A 型就労移行支援事業所「キズナビジネスカレッジ」接続が出来、テストランがスタート（VTS／SAV） ■団体の発展性：「身近なアートコミュニケーター」養成講座の受講生を地域活動の共創人材として養成する方向性を打ち出し、文化的処方への担い手候補生として接続（4 名が到達）AC 養成講座、地域活動見学会、武蔵野アール・ブリュットに挑戦【継続】ができた。 ■実効性：春・秋期の身近な AC 養成講座に屋外での実習機会を設けて 7 回講座を企画・実施した。また武蔵野アール・ブリュットでは 2 つの SAV を企画・プロデュース実施した。 ■補助金を除く資金調達の達成度：事業収入を含む資金調達達成度は 59.4%の見込。
今後の課題・豊富	■今後の課題：実践と学びから、「社会的処方」、「学習指導要領」に取り上げられ、全国的に広がっている「対話による絵画鑑賞」が武蔵野・三鷹では未だ、教育や福祉そしてビジネス分野で展開されていない。したがって普及展開をすすめる担い手となる「身近なアートコミュニケーター」養成講座（カリキュラム）から共創人材の育成をねらっていく（今年度で累計 66 名）。 ■抱負：2028 年迄に「身近なアートコミュニケーター」養成目標 100 人とする（今年度実績 32 名、累計 66 名。春期・秋期の講座開設を準備中）。その他 VTS、SAV のアートコミュニケーション事業、新規開発予定 WEB ワークショップを企画・実施する。

活動状況について

■**総括**：通期で 2 回×7 日間の身近なアートコミュニケーター養成講座を開催できた。また秋期には＜AC➡共創人材➡社会的処方の担い手、文化リンクワーカー＞への接続を考えた講座の仕組み「循環型の 7 ステップモデル」を仮説検証した。



千川福祉会「ごちゃまぜの会」



東京都写真美術館にて



小さなグループでのVTS実践



就労移行支援「キズナビジネスカレッジ」



東京国立近代美術館にて



吉祥寺美術館にて



銀座「ヘラルボニー」、渋谷ハラカド「シバヤフントラボ」でArtBrutを考える会



たましん美術館にて